

一般質問14人が登壇

紙面の都合により、質問と答弁の要点のみ掲載しています。市議会会議録は、議会事務局、図書館、公民館、庁舎、地区行政センターなどの公共施設、またはホームページにて閲覧できます。
なお、12月定例会会議録は3月中旬から閲覧可能です。

北野唯道

問 地方創生について

答 人口減少を抑制しようとする地方創生を掲げ、本市もその基礎となる総合戦略を策定したところである。安心して結婚・妊娠・出産・子育てできる環境整備をしていきたい。

問 一億総活躍社会について

答 安倍首相が打ち出した新しい三本の矢の第二の矢、夢をつむぐ子育て支援に関する部分を福祉部としてやって行きたいと思う。

問 高齢者の取り組みと支援について

答 第六期介護保険事業計画において必要なサービスを提供するための対策として27年度において定員28名の特定施設入居者生活介護施設を、1施設を29年度において定員29名の地域密着型介護老人福祉施設をつくる。

問 子どもの貧困について

佐川京子

問 今年度就学援助制度の対象となった児童生徒数は12月1日現在で小学校44人、中学校270人計712人で全児童生徒数に占める割合は13・11パーセントとなっている。

問 子育て支援のソフト面のサービスの充実をめざし「白河版ネウボ(助言ラ(場所))」を研究し導入してはどうか。

答 先駆的な取り組みなので早期に事業化していきたい。

問 保育士がなかなか集まらない現状がある。嘱託職員や臨時職員の給与面等での処遇改善に取り組むべき。

答 来年度もベースアップの方向で検討している。今後保育士確保に向けた処遇改善に努めてまいらる。

問 市内循環バスの五箇、白坂、久田野地区等への運行はいつになるのか。

答 高齢化に伴う生活の足の確保は重要な課題。民間バス

や医療機関、商業施設との連携や効率的な路線系統を調査・検討してまいらる。

問 市民文化交流館の隣接地にも駐車場を整備する必要があると思う。

答 検討してきたが、隣接地は住宅地で見つからない。

問 市民会館跡地を駐車場にしようか。

答 公共性の高い有効的土地利用に広く意見を聞き決める。



緑川 撰生

問 障がい児福祉の向上についての市の基本的な考えは。

答 障がいの有無に関わらず、子供が地域で学び育つことは将来の生活を豊かにするため重要なこと。障がいの程度特性を踏まえ、相談支援体制を整備し、適正な進路相談や指導の実施とサービス提供に努めている。

問 障がいに関わる相談を解決するための窓口と連携は。

答 社会福祉課が窓口で、健康増進課、こども課、教育委員会が連携して対応している。

問 支援が必要とされる子供達のために放課後等デイサービスの設置は必要ではないか。

答 障がいの特性などによりサービス利用の希望者が増加傾向にある。子供からは「楽しい。友達ができ遊べる」、保護者からは「どんなことでも相談できる専門的な施設」、

「預けることで余裕が生まれ生活が潤う」などの声を伺っている。施設の開所や定員の増について、サービス提供事業者への働きかけを行い障がい児福祉の充実に努めていく。

問 米をめぐる情勢とその対策について市長の考えを伺う。

答 今後、売れる米づくりに向け、食味に優れた主食用米の生産や販売対策の強化を図るほか、飼料用米などの作付拡大、他作物などへの作付転換も推進し、農業経営の安定化を図ってまいらる。また、継続的に農業ができるよう、行政や農業団体が、その立場、役割を認識し、あらゆる方策

根本 建一

問 結果に對しどのようなアドバイス、指導を行ったのか。

答 結果説明に留まった。今後の指導にあたっては、JA及び集荷事業者等農業団体と連携した体制づくりを行い、市全体のブランド化を目指す。

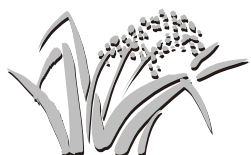


検査の様子

を講じて行く必要があると考えている。

問 市では今年度から、白河産米の食味向上対策として食味計を導入したがその運用状況について伺う。

答 11月末現在で、72名、140検体の依頼があった。主要产品であるコシヒカリ、ひとめぼれ、天のつぶの平均値は、いずれも目標である80点には達していなかった。



問 地球温暖化対策についてスマートフォンについて

答 国ではマイカーを使用しない移動方法であるスマートフォンを推奨しており、市としてもこの取り組みを進めるべきと考えている。具体的には通勤や通学、また買い物や通院の際にはなるべく市内循環バスなどの公共交通機関を利用するように促し、さらに健康増進のため徒歩や自転車の活用について、市の広報やホームページなどを活用し、周知を図ってまいる。

問 観光行政について。リピーターを増やす取り組みについて

答 ふくしまDCを契機に組織した「ふくしまDC県南推進協議会」においては県南9市町村のキャラクターをラッピングしたバスの運行や、イベントやPR活動を行ってきたことで観光客が増加し回遊するという成果が出ている。来年度は県南9市町村で回ってもらいたい名所を設定し、ご当地キャラ人形をプレゼントするとといったスタンプラリーの実施を検討している。



県南9市町村キャラクターのラッピングバス

大竹功

問 マイナンバー通知カードの送付状況は。

答 11月23日から配達が始まり12月10日までに配達を終了と聞いている。1660件が市に返送され、受取拒否も24件あった。今後、返送等については、連絡をとり受取っていたかどうか努力したい。

問 制度に対する広報が十分に思えるが、どうか。

答 今後、各戸配布チラシを作成し、制度について周知を図っていきたくと考えている。

問 私道における側溝の清掃について、市は原発事故後、規制している。しかし、汚泥

等が堆積し、危険な状態になっているところもある。今後、どのように考えているのか。

答 現在、住宅除染に合わせ、対応しているが、線量が基準値以下の場合、できないこととなっている。今後、国等から指示があると思うが、それまで自宅保管をお願いしたい。

問 9月に児童の連れ去り事件が発生した。今後の児童生徒の通学路安全対策は。

答 安全対策指導を児童生徒に再度徹底するよう指示した。



下校時の見守り隊活動

十文字博幸

問 生ゴミの減量化について

答 生ゴミが増えることは、ゴミ処理に係る経費の増大を招き、家計負担を大きくするだけでなく、焼却処理により大量の二酸化炭素を放出するため、環境汚染や地球温暖化の原因にもなっている。

問 生ゴミのリサイクルの方法について

答 市民一人一人が、生ゴミを減らすという意識を持って生活することが重要である。

問 生ゴミの分別収集を行い、資源ゴミとして活用することについては、ゴミの減量化やリサイクルの観点から、有効であると認識している。

ゴミの減量化、あるいは、焼却施設の延命化などにも繋がることから、将来的な課題として、広域圏や構成町村と調査研究をしてまいりたい。

問 こみねつとバスの他地域の運用方法について

答 循環バス「こみねつと」を運行し、駅、各種公共施設、医療機関、商業施設、観光施設などと連絡し、利便性の向上を図り利用促進に積極的に努めているところである。



佐藤正則

問 白河市の防災対策及び除雪対策について①災害情報の伝達方法②避難所設置③装備状況④避難行動要支援者の避難誘導や輸送方法⑤生活道路の除雪体制について何う。

答 ①「緊急速報メール」や「公共情報コモンズ」運用②災害の種類を考慮し設置③耐震性貯水槽④生活物資は締結自治体や関係機関との連携④名簿を作成し、消防・警察・町内会の協力。福祉事業とも協定⑤協力業者76及び9町内会と連携して対応していく。

問 白河全体の農業の実態と白河市としての今後の対策

答 平成22年と17年対比で、戸数・従業者数・耕作地面積とも減少しており、売れるコマ作り、販売対策の強化を図っていく。

問 白河市大信地域市民交流センター条例（料金、暖冷房費、料金の減免）について

答 集会室1時間600円、和室300円。暖冷房費は使用料に含まれる。集会室は半分に区切られ、半分利用は1時間300円。料金減免は、減免基準を参考に適用する。

石 名 国 光

問 観光地域づくりは、DCで県南9市町村が結成した協議会が中核組織として新たな連携を進めることについて

答 国は観光の活性化を通し「地方創世」を推進するため戦略的な地域づくりの中核組織「日本版DMO」を育成する方針を示している。その観点から広域連携をさらに強化し、県南推進協議会を母体とし観光物産協会等の関連団体を含んだ、DMOの考えた組織について検討してまいる。

問 中間貯蔵施設への搬出について

答 10月末現在での用地取得等の契約件数が、わずか14件で除去土壌等の搬出計画は未だ示されず、本年度実施された試験輸送が引き続き出来るよう要請してまいる。

問 東電敷地（第二原発）内に中間貯蔵施設が完成するまで「仮の置場」として利用することについて

答 これまでの経過と原発立地地域皆さんの心情を踏まえ施設早期整備と除去土壌早期搬出について機会を捉え、国や県に強く要請してまいる。



大信地域仮置き場から中間貯蔵施設への試験輸送

問 大信地域における教育環境整備について

答 大信地域の3小学校における学校統合問題について

縄 田 角 郎

問 昨年11月に大信地域小学校再編検討委員会より、大信地域の3つの小学校は、速やかに統合を推進することという答申をいただいた。答申には、統合にあたって子どもたちの不安を解消することなどの要望事項が5点示されており、今後の検討課題と捉えている。また、保護者へのアンケートでは、通学方法や統合小学校の設置場所について明らかにしてほしいというものがあつた。これらも重要な課題であると認識しており、そのため、本年9月に大信地域小学校統合推進委員会を設置し、答申やアンケートの意見などに対してさまざまな角度から協議をしていただくとともに、3つの小学校の統合に向けて、課題解決のための具体的な対応案をとりまとめ、提言していただく予定である。

岩 崎 洋 一

問 来年からLPGA・日本女子プロゴルフ協会とゴルフタウンしらかわ推進協議会が主催して、来年から毎年、LPGA全国小学生ゴルフトーナメント決勝大会inしらかわが開催され、全国の小学生ゴルファーがしらかわを目指すので、ゴルフをする環境を整っているしらかわに、子供をプロゴルファーにしたい家庭の移住・定住を促進してはどうか。

答 ジュニアからシニアまで幅広くゴルフを楽しめる環境を整えることは、様々な効果が期待できることから、議員の提案を含め、今後、十分に検討する。

問 お酒を飲まない、お金を賭けない、たばこを吸わないをモットーに行われる「健康麻雀」は、頭や手先を使うので、認知症予防に効果があるので、各地の健康サロンの企画に加えてはどうか。

答 健康麻雀は、頭を使いながら指先も使うため、脳に良い刺激を与え、4人一組のコミュニケーションは、認知症の予防に効果的であるものと考えますので、高齢者サポートを對象にした研修会において、「健康麻雀」を紹介して参ります。



健康マージャン

水 野 谷 正 則

問 「白河市屋外広告物等に関する条例」について

答 本条例は、景観行政を担う市町村としては県内初。有識者や市民の方々からの意見を反映するとともに、白河の地域特性にも配慮したものとされており、不適格となる広告物の改修・撤去に対する助成制度や、色彩や高さ、材質などの推奨する基準を盛り込んだガイドラインを策定することにより、質的向上が図られ、これまで以上に景観に配慮したまちなみが形成されるものと考えている。

景観行政を担う市町村としては県内初。有識者や市民の方々からの意見を反映するとともに、白河の地域特性にも配慮したものとされており、不適格となる広告物の改修・撤去に対する助成制度や、色彩や高さ、材質などの推奨する基準を盛り込んだガイドラインを策定することにより、質的向上が図られ、これまで以上に景観に配慮したまちなみが形成されるものと考えている。

問 保育園の待機児童対策について

答 今年度は12名の職員を採用し、受入れ園児の拡大を図っている。加えて、ニチイ学館が新白河に小規模保育施設を28年4月に開所の意向があることから、所要の予算を計上した。待機児童の解消に結びつくと考えている。

問 ひまわり保育園が廃園されるが、受入先について何う。

答 市内の保育園・幼稚園に転園できる。待機児童は、発生しない。

大 花 務

問 陸上競技場の利用時間は。

答 現在、午後5時まで施設を開放しているが、今回の条例改正により、平成29年4月から管理棟の照明設備を利用し、400mトラックを使用したランニングに限定して、利用時間が午後9時までとなる。

問 白河文化交流館について

答 館長は、現在東北文化学園大学教授の「志賀野佳一」氏を登用する予定。舞台技術系のスタッフは照明技術者技能認定、舞台機構調整技能士の有資格者を雇用予定で、不足する部分は、一部を外部に委託して体制を整備する。ス

タッフ全体は、施設の最高責任者の館長・施設管理者・自主事業を統括する副館長2名を配置し施設経理や庶務・広報等の事務を担う総務・経理担当、施設維持管理や貸館受付等を担う施設管理担当、自主事業企画・実施までの実務を担う事業担当、ホールの舞台機構・音響・照明の各設備の安全管理と運用を担う技術担当となり、合わせて16名体制での運営を予定している。これらに加え市職員の派遣を予定している。



白河市陸上競技場

深 谷 弘

問 市財政状況と市民要求実現

答 平成18年度から「財政健全化計画」を策定、財政健全化に取り組みななかで、財政状況は改善されてきた。余裕財源である積立金も年々増やされ、財調・減債・公共施設等整備基金だけで70億円を超えている。今後の財政運営のためと言うが、裏を返せば市民の要求に応じておらず、ため込み過ぎではないか。

問 地方交付税の減少や少子高齢化に伴う社会保障費の増加、大規模災害発生時の緊急的な財政出動などに対応できるように、今後も当該年度の施策推進に影響のない範囲で積み立てを行っていききたい。

答 地方交付税の減少や少子高齢化に伴う社会保障費の増加、大規模災害発生時の緊急的な財政出動などに対応できるように、今後も当該年度の施策推進に影響のない範囲で積み立てを行っていききたい。

問 土曜授業の導入について

答 文科省の方針で土曜授業が可能となった。子どもの負担増や教員の多忙化など懸念されるが、なぜ市教委は今年度から導入を決めたのか。

答 補充指導等を実施するための授業時数の確保や、地域人材を活用した体験学習を効果的に実施できると判断した。今年度の実施回数は全小中学校で3回となっている。

議員政治倫理条例に

基づき戒告処分

平成27年9月7日付けで市民10名から、大竹功一議員の発行した活動報告書「はってん(2015年8月20日第37号)」に記載されている内容に行き過ぎた表現があり、市議会議員の名誉を失墜させる虚偽の事実や誹謗中傷にあたるものが含まれ、白河市議会議員政治倫理条例の規定に違反するのではないかとして、市議会議員政治倫理条例第5条に基づき審査の請求書が提出され、同月17日付で白河市議会政治倫理審査会が設置されました。

また、審査結果を大竹功一議員に通知したところ、平成27年11月24日付で、弁明書が提出されました。

この審査結果を踏まえ、議長は、平成27年12月7日の本会議に諮り、大竹功一議員に対し、全会一致(大竹議員は除斥)で戒告の措置を講じることと決定し、白河市議会として直ちに戒告処分を科しました。

審査を重ねた結果、「はってん」に記載された内容は同条例第3条第1号及び同条第8号に規定する政治倫理基準に違反しているとの結論に至り、平成27年11月2日、議長に対し審査結果報告が提出されました。

※次ページに、審査の結果と弁明書並びに戒告文の概要等について掲載しておりますが、ホームページにおいて全文を掲載しております。